

岩木川治水80年の足跡



岩木川改修期成同盟会会長
五所川原市長 成 田 守

津軽平野を悠々と流れる岩木川は、白神山地の雁森岳に源を発し、十三湖にいたり日本海に注ぐ流路延長102km、流域面積2,540km²を有する青森県最大の河川として、古くから流域一帯は大きな恩恵を受け、歴史と文化を育んできた「母なる川」であります。しかし一方では、豪雨のたびに洪水氾濫を繰り返し未曾有の被害をもたらしておりました。

岩木川が現在の河川として形態に至るまでには長い年月を要し、初めて治水事業に着手したのは、今から約320年前、津軽三代藩主信政公時代といわれており、その当時、機械文明を持たない先人たちの苦難、苦勞に改めて敬服するものであります。

時代は移り、大正7年12月に北津軽郡五所川原町（現五所川原市）に内務省岩木川改修事務所が設置され、国直轄事業として本格的に治水事業に着手され、今年で80年を迎えることは感無量の思いがあります。

岩木川改修期成同盟会の歴史も古く、明治43年2月、当市出身でその一生を岩木川治水と当地域の発展に尽くされた長尾角左衛門翁を幹事に創立され、以来幾多の困難を踏み越えて治水、利水事業を展開、現在流域28市町村の会員を有するに至っております。

私の幼少時代の岩木川は、清流が流れ水遊びや魚釣りを楽しんだものであり、川砂のさらさらと足裏に心地好い感触は今でも私の脳裏に焼きついております。また、秀峰岩木山を背に、市庁舎裏側を流れる岩木川の四季折々の風景は執務に疲れた私の心を暫し癒してくれます。反面、生活環境の進展から、年々水の汚れが進み、昔の思いが薄れていることもまた事実であります。

このことから、岩木川が津軽全地域の環境保全資源としての価値を再確認し、流域住民及び動植物に欠かすことのできないきれいな水の流れを取り戻すことが岩木川期成同盟会の使命と痛感しているところであります。